

妹背牛町

1328 佐藤公耶

1. 妹背牛町の概要

1.1 由来

町名の由来は、アイヌ語の「モセウシ」で、「モセ・ウシ・イ」(カヤ狩りをする・のが習いである・もの 場所)が転訛したものだとしている。当初は「望畝有志」と表記していたが、1898 年に変更された。

1.2 妹背牛町のシンボル

町章は、親しみ深い「も」を、米所である妹背牛を象徴して稲穂の形で表している。相対する二つの囲みは協力と提携、その間の二条の線は平和、全体の円形は円満、融和、統一を求め、更に二つの三角形の鋭角をもって円の内外に突出しているのは、町の内外に向かって進歩と発展を希望する意味である。町木はななかまどである。自然を愛する心と限りなく発展する妹背牛町の姿を象徴している。町花はつつじである。花を愛し、郷土を愛する心を育むため、清潔な美しい郷土、妹背牛町の姿を花で象徴している

図 1 妹背牛町の町章



出典：妹背牛町 HP

1.3 妹背牛町の歴史

1889 年、妹背牛町の元となる華族組合雨竜農場が雨竜平野に開場した。その後、1923 年に妹背牛村として深川市(当時は深川村)より分立し、1952 年に町制施行にともない妹背牛町となる。2004 年に北空知 1 市 4 町合併協議会を設置した。

図 2 妹背牛町の町木と町花



出典：妹背牛町 HP

2. 妹背牛町の地理・気候

2.1 妹背牛町の地理

地勢は平坦で、南には石狩川、西に雨竜川、北に大鳳川が流れ、耕地には概ね沖積土壌で農耕適地となっている。総面積は 48.55 平方 km である。北空知管内の北部にあり、深川市、滝川市などの自治体が隣接している。距離的には旭川市からは約 40 分、札幌市からは高速道路を使用した場合約 1 時間かかる。

図 3 カントリーサイン



出典：北の道ナビ

図 4 妹背牛町の位置



出典：妹背牛町 HP

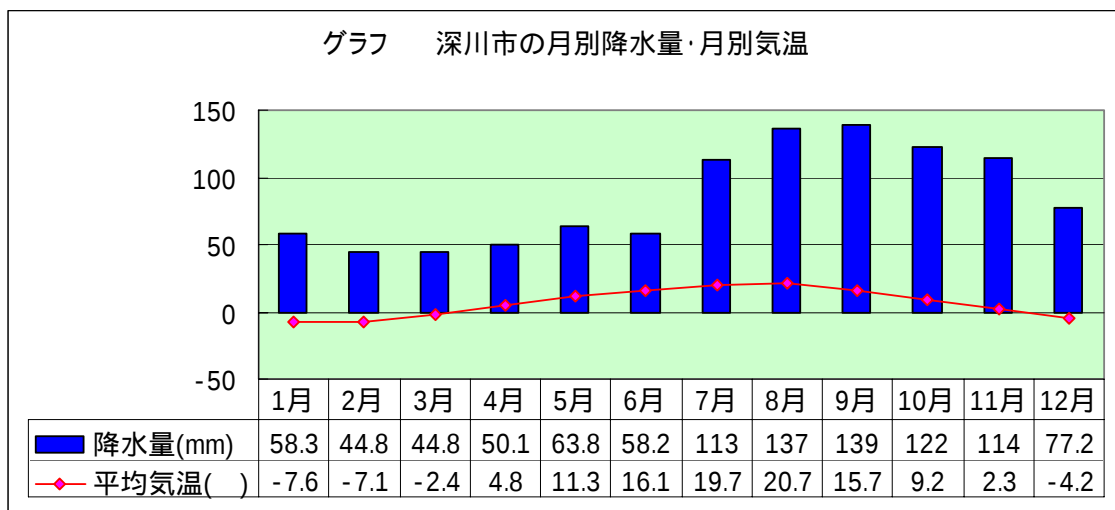
図 5 妹背牛町の位置



出典：農林水産省 HP

2.2 妹背牛町の気候

気候は裏日本型の内陸気候を示し、気温も夏は 30 度、冬は氷点下 20 度以下になることがしばしばあり、年間平均気温は 6.7 度程で平年の初雪は 11 月上旬頃、融雪は 4 月と約半年間は雪の中の生活となる。平均降水量、平均気温ともに妹背牛町のデータがないため、近隣都市である深川市のものを載せるので参考にしてほしい。

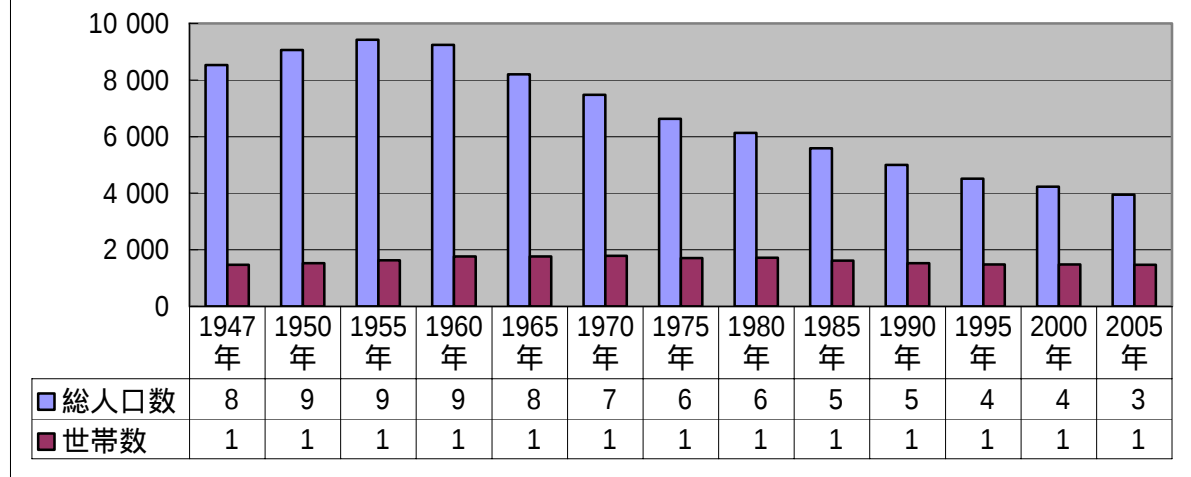


出典：気象庁 HP より筆者作成

3. 妹背牛町の人口・世帯

世帯数には急激な数値の変動は見られないが、人口は 1955 年の 9421 人をさかいに減少しており、1995 年にはピーク時の半分以上となっている。世帯数は小さく減少をしており、人口が激減しているにも関わらず、さほど減っていないことから 1 世帯当たりの人数が激減していることが推測できる。

グラフ2 妹背牛町の人口・世帯数推移



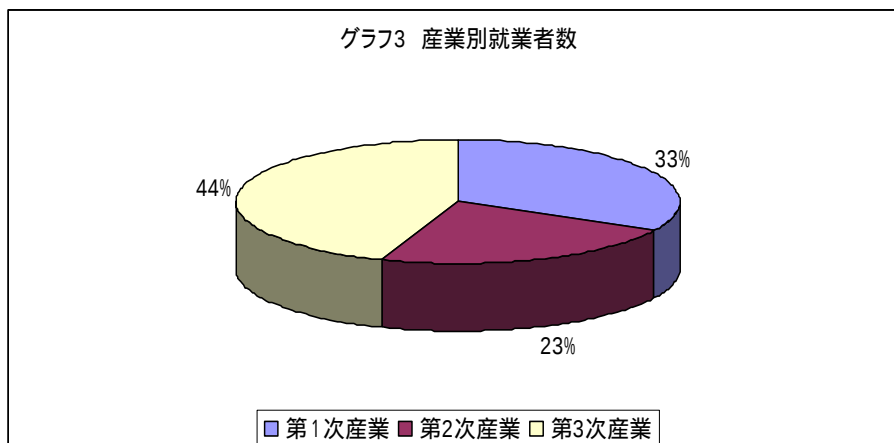
出典：北海道庁「過去の国勢調査結果」より筆者作成

4. 妹背牛町の産業

4.1 妹背牛町の産業別人口

妹背牛町は第3次産業の就業人口が最も高く、産業別人口で見ると、第1次産業の就業者数が652人で全体の33%、第2次産業就業者数が458人で全体の23%、第3次産業就業者数が887人で全体の44%となっている。第1次産業は農業、第2次産業は製造業、建設業、第3次産業は卸売業、小売業、運輸業などが挙げられる。産業別では、農業が基幹産業となっている。

グラフ3 産業別就業者数



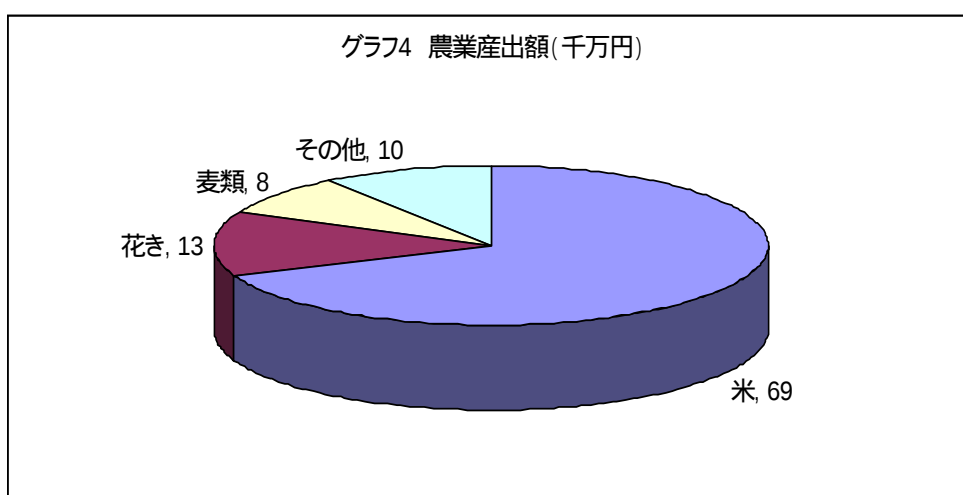
出典：農林水産省経済データより筆者作成

4.2 妹背牛町の農業

妹背牛町は町域面積対農耕地比率が 74%と日本一を誇る、農業の町である。農業の歴史は、1893 年に戸田農場、1917 年に蜂須賀農場が雨竜町に開設されたことにより。妹背牛町でも農場開拓を行っている。更に札幌農学校の初代校長、森源三氏がこの地を七区域に分割し開拓に鋤をいれたのが始まりとされている。

特に米の生産が盛んである。農業産出額全体の 69%を占めており、品種としてはななつぼしやきらら 397 などが主である。また、花きは全体の 13%となっており、上位 2 つの産業で全体の約 8 割を占めていることがわかる。他にも麦類なども生産している。耕地面積は 3460ha であり、田が 3250ha、畑が 206ha と圧倒的に田が広いことが分かる。

農家率は 17.4%で、販売農家率は 96.2%とほとんどが販売農家であり、農家数でみると全体は 238 戸で、そのうち 9 戸が自給的農家、229 戸が販売農家である。販売農家のうち、専業農家が 130 戸、第 1 種兼業農家が 85 戸、第 2 種兼業農家が 14 戸となっている。農家人口は男性が 567 人、女性が 602 人で合計 1169 人であり、女性の方が若干ではあるが多くなっている。また、65 歳未満の農家人口は男性が 221 人、女性が 165 人の合計 376 人で農家人口の約 32%しかおらず、農家が高齢化していることがわかる。

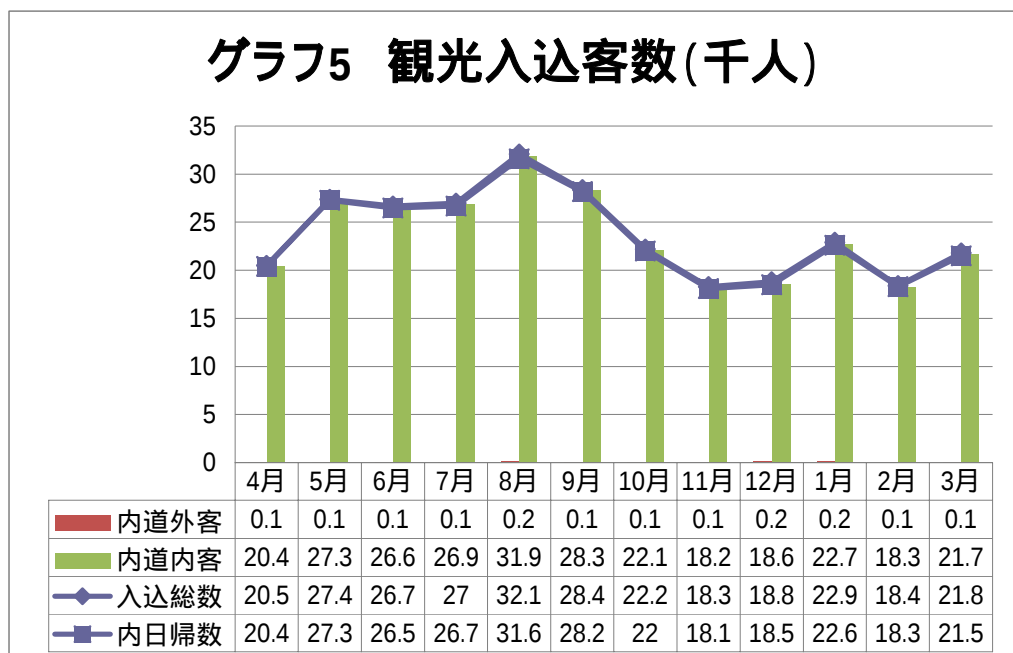


出典：農林水産省農業データより筆者作成

5. 妹背牛町の観光

5.1 妹背牛町の観光

春から秋にかけて観光客が比較的多く、冬は減少している。グラフ 5 から入り込み客数と日帰り客数がほぼ一致していることがわかる。これは妹背牛温泉ペルのような日帰り入浴可能な温泉施設があるということもあり、妹背牛町に寄っていくという程度の観光がほとんどであると推測できる。



出典：北海道庁 HP より筆者作成

5.2 妹背牛町の観光名所

5.2.1 妹背牛温泉ペペル

ペペルとはアイヌ語の“PE”(ペ)「水」と“PERU”(ペル)「泉」を表す。この温泉を永く愛してもらいたいという願いをこめて明るく和やかなネーミングとなった。温泉ペペルは豊富で良質な純天然温泉を地下 1500m から汲み上げており、平成 5 年の開業以来多くの人々に愛され親しまれている。また、隣接しているコテージには、冷暖房・調理器具など各種設備・備品を完備しているため、家族単位から各種団体まで多目的に利用されている。

図 6 ペペルの露天風呂



出典：妹背牛町 HP

5.2.2 遊水公園うらら

ウォータースライダーや水遊び場をはじめ、木製遊具、バッテリーカーなどの各種遊戯施設が完備されている。また、敷地内にはカーリング専用屋内施設「妹背牛町カーリングホール」がある。道内 2 番目の屋内専用カーリング施設で、国際大会の開催も可能。全日本選手権など国内の主要な大会も毎年行われている。

図 7 遊水公園うらら



出典：妹背牛町 HP

5.2.3 妹背牛郷土館

妹背牛郷土館は、1931年に村役場として建築されたものである。事務室と議事堂を左右対称にしたつくりは、明治期のフランス風デザインの流れをくんだ建築物として高い評価を受けており、1985年に新庁舎落成を機に建築当時の姿に復元した。内部には、開拓期から現在に至るまでの約600点にのぼる貴重な資料が保存・展示されている。

図8 妹背牛郷土館の外観



出典：妹背牛町 HP

図9 妹背牛郷土館内



出典：妹背牛町 HP

図10 もせうし夏祭り

5.3 町民まつり「もせうし夏祭り」

毎年新しい趣向を凝らして、にぎやかに開催される町民まつりで夏真っ盛りの8月上旬に行われる。子供から大人まで楽しめる多彩なプログラムが用意されており、祭り広場は終日、老若男女が歓声に包まれる。



出典：妹背牛町 HP

5.4 妹背牛町の特産品

大黒屋の生どらデコレーション、葉舞な里から（ハーブ焼酎）などがあり、町民だけでなく、深川市などの近隣都市に住む人たちにも親しまれている。また、ここにはないが、米の生産が盛んということもあり、お米カステラなど、米を使った特産品も多くある。

図11 生どらデコレーション



出典：妹背牛町 HP

図12 葉舞な里から



出典：妹背牛町 HP

参照ホームページ

- ・北海道庁「過去の国政調査結果」：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/001ppc/co.htm>
- ・北海道庁「観光入込客数調査報告書」：
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/301-irikomi/irikomitop>
- ・農林水産省「わがマチ・わがムラ」：<http://www.machimura.maff.go.jp/>
- ・妹背牛町 HP：<http://www.town.moseushi.hokkaido.jp/>
- ・気象庁：<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・北の道ナビ HP：<http://www.northern-road.jp/navi/index.htm>